



令和8年第2回苅田町議会定例会

町政報告

遠田町長は令和8年苅田町議会3月定例会開会日の2月25日、次のように町政報告を行いました。(文字数の関係で内容を一部省略しています)

トピック① 渇水の状況と対応

日本各地で記録的な少雨により水不足が深刻化しております。苅田町におきましても、主要な水源であります油木ダムの貯水率が低下したことを受け、庁舎玄関への節水ポスターの掲示や町ホームページ、公式LINE、広報紙および公用車での節水の呼びかけを行っています。

また、2月26日には渇水対策本部を設置し、今後の状況によっては、大口需要者である企業や事業所への節水依頼、各区への節水ポスター・チラシの配布、減圧給水などの実施を検討してまいります。

皆さまにはご迷惑をおかけしますが、引き続き節水へのご理解・ご協力をお願いいたします。詳細は24ページと裏表紙をご覧ください。

トピック② 財政状況及び当初予算案

日本経済は、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果により、緩やかな回復基調が続いています。一方で、今後の物価動向や米国の

通商政策をめぐる動向など、景気を押し下げるリスクがあり、金融資本市場の変動等の影響も懸念されるなど、経済を取り巻く環境は依然として不透明な状況にあります。

このような状況の中、国は2月の施政方針において「責任ある積極財政」の考え方のもと、持続的な賃上げと投資の拡大による経済の好循環の実現を掲げ、中小企業および小規模事業者への支援として、適切な価格転嫁や生産性向上、経営基盤を強化する事業承継・M&Aの後押しなど、地域経済を支える施策を総合的に進める方針を示しています。

こうした地域経済の動向は、町税収入をはじめとする歳入に直接影響を及ぼすものであり、物価上昇は行政サービスに要する経費にも直結するものと認識しています。苅田町におきましては、道路などのインフラを含む公共施設の老朽化対策や、少子高齢化の進展による社会保障経費の増加など、従来から山積する行政課題に加えて、物価高騰や人件費の上昇といった新たな課題が生じ、複雑化、多様化する行政課題への取り組みとともに健全な財政を維持していくこ

とが重要課題であります。

令和8年度の予算案は、これらの諸課題に対する施策を推進するため、一般会計予算案の総額は、186億1547万9千円で、前年度と比較して7178万8千円の減額となっております。

まず、歳入につきましては、固定資産税は増収を見込んでいるものの、町民税の個人分、町民税の法人分はいずれも減収を見込んでいます。

次に、歳出につきましては、人件費が、給与改定の影響などにより、前年度と比べて9900万6千円増の35億272万4千円となっております。

また、扶助費が、自立支援給付費や私立保育園委託料の増額などにより、前年度と比べて7350万9千円増の44億4450万1千円となっております。

物件費につきましては、苅田中学校長寿命化工事に伴う仮設校舎の借上げの終了や、地方公共団体情報システム標準化・共通化への対応に係る費用の減などにより、4億5万5千円減の

39億7866万9千円となっております。

投資的経費につきましては、苅田中学校長寿命化改修工事の終了などにより、前年度と比べて、2217万7千円減の22億3325万3千円となっております。

予算の主な内容としましては、第5次苅田町総合計画の6つの政策に沿った予算編成を行っています。「未来を拓く人づくり」としましては、小中学校体育館空調設備設置工事設計業務や、苅田町みらい人財育成事業などを計上しています。「活力ある産業のまちづくり」としましては、自動車産業支援次世代自動車購入費補助事業や、臨空公園整備工事などを計上しています。

「だれもが元気で健やかに暮らせるまちづくり」としましては、保育園の認定こども園への移行に係る費用や、こども誰でも通園制度に係る給付費などを計上しています。

「安全で暮らしやすい環境があるまちづくり」としましては、地域自治振興補助事業や、地域集会所施設整備補助事業などを計上しています。

「快適な都市基盤があるまちづくり」としましては、与原土地画整理事業地内に計画されている与原公園の予備設計業務や、苅田町空き家利用促進事業などを計上しています。

「持続可能なまちづくり」としましては、中央公民館大規模改修工事や、苅田町こども記者事業などを計上しています。

トピック③ 北九州空港の状況

平成18年3月16日に24時間運用可能な海上空港として開港した北九州空港は、今年で開港20周年の節目を迎えます。開港に合わせて、苅田北九州空港インターチェンジの供用開始、JR苅田駅のリニューアル、そして空港連絡橋の開通等、周辺整備が次々と行われ、陸・海・空の交通結節点としての町の特性が明確となり、苅田町にとって歴史的な転換点となりました。

開港20周年を記念する取り組みとして、2月2日に県知事・北九州市長と3者での「開港20周年座談会」が開催され、空港の果たしてきた役割や今後の展望について

対談を行いました。また、3月15日には「北九州空港開港20周年記念式典や感謝イベント」も予定されており、関係機関や地域の皆さまとともに節目をお祝いする予定となっております。

空港の今後の展望としましては、令和9年8月には滑走路が3千メートルへ延長される予定で、大型貨物機の長距離運行が可能となるなど、今後も更なる発展が予想されています。引き続き、国や福岡県、北九州市、関係企業等と連携しながら、利用促進や路線誘致、貨物拠点化に向けた取り組みを進めてまいります。



トピック④ 土地区画整理事業の進捗

現在、与原土地画整理事業につきましては、事業により整備される宅地のうち仮換地・保留地を合わせ、令和7年度末で約23.4万㎡、約84%の使用収益が開始される見込みです。

また、令和7年度末の工事進捗率は約90%となる見込みです。

トピック⑤ 消防車両の更新

消防本部に配備している車両のうち、平成12年に導入された水槽付き消防ポンプ自動車を老朽化に伴い更新しました。新しい車両は、最新の装備と性能を備えており、災害現場の最前線で活躍する車両となっております。更新により、町民の皆さまの安心の向上と生命・財産を守るための体制の強化につなげてまいります。詳細は24ページをご覧ください。

※行事報告は省略しました。